

## アナフィラキシーのお薬

注射というと、お医者さんが打つものと思いませんか？アナフィラキシー・ショックのように急激な血圧低下や意識障害をともなうなど命にかかわる症状が出る可能性がある場合、自分で注射する薬（アドレナリン自己注射薬）が処方されます。症状が進むのがとても早いので、お医者さんに行くまでにアドレナリン注射を打てないことがほとんどだからなんです。

過去にアナフィラキシーの原因となった食べ物を誤って食べたときや、ハチに刺されて明らかな異常を感じたとき、息苦しさ（呼吸困難）やのどがしめつけられる感じがしたときは、アドレナリン自己注射薬を打つタイミングです。太ももの外側に注射します。基本的には自分で注射する薬ですが、自分では注射できないくらい悪い状態になってしまった時は、人命救助の目的で救命救急士や学校の先生が本人にかわって注射します\*。過去にアナフィラキシー・ショックをおこしたことがあったり、おこす危険性がある場合には、普段からアドレナリン自己注射薬を携行し、主治医からしっかりと指導を受けておくことが大切です。

※保育所および学校において緊急の場に居合わせた関係者が、アドレナリン自己注射薬を使用できない状況にある本人のかわりに注射することは人道に許される。

2009年3月より、アナフィラキシーショックで生命が危険な状態にある傷病者が、あらかじめアドレナリン自己注射薬を処方されている場合、救急救命士はこれを業務として使用することが可能となった。

「食物アレルギーの診療の手引き2011」検討委員会：厚生労働科学研究班による「食物アレルギーの診療の手引き2011」より抜粋

[http://www.allergy.go.jp/allergy/guideline/05/05\\_2011.pdf](http://www.allergy.go.jp/allergy/guideline/05/05_2011.pdf)  
2013/2/25 参照



## まとめ

- 食物アレルギーのサインを知っておこう
- アレルギー症状が出たら、まずお医者さんの診断を
- 食物アレルギーが出やすい食べ物を覚えておこう
- アナフィラキシーについてきちんと理解し、正しい対応を

#### 学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）について

食物アレルギーによる事故を防ぐためには、保護者と学校、主治医の連携・協力がとても重要です。学校生活管理指導表は学校生活の中で特別な配慮が必要な児童生徒が提出するものです。保護者が主治医に記入してもらって学校に提出し、それをもとに学校関係者と保護者が話し合っ学校での対応を決めるようにしています。食物アレルギーは年齢とともに治ったり、別の原因物質に反応しはじめることもありますので、毎年診断を受けて学校生活管理表を更新していくようにしましょう。詳しくは学校や自治体の教育委員会へお問い合わせください。